

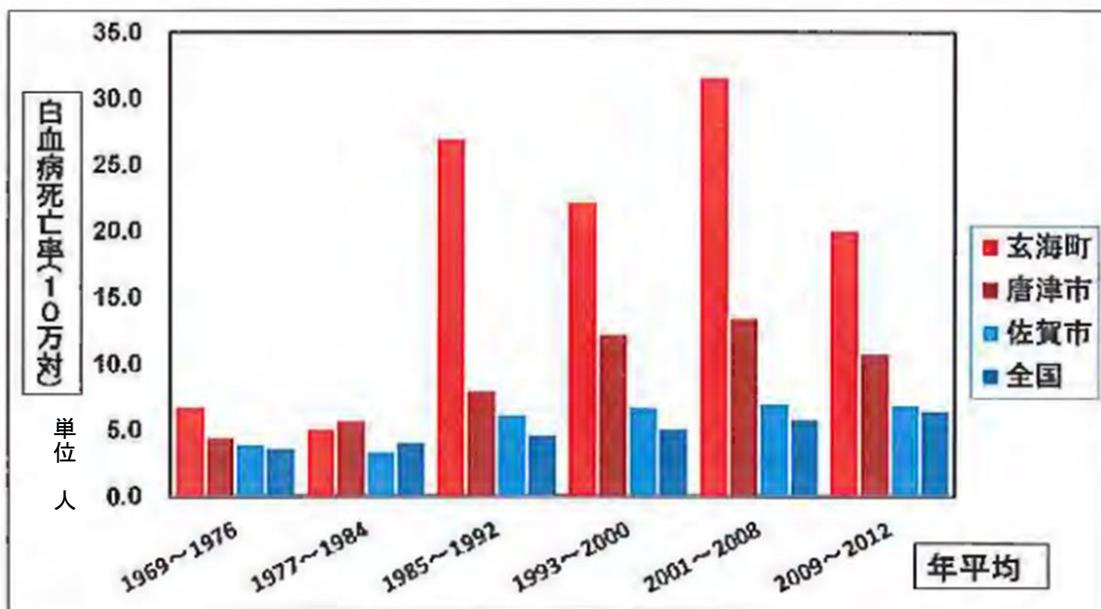
玄海原発再稼働反対!



民家に
近過ぎ!

稼働すると
事故が
なくとも
危険!

玄海町、唐津市、佐賀市と全国の白血病死亡率の推移



単年度で見ると、玄海町と唐津市では1983年から増加傾向がみられ、1985年からは高止まりしている。(データ出典:佐賀県人口動態統計) ※

グラフ作成・調査 元 純真短期大学講師・森永徹氏 (社会医学研究, 第56回日本社会医学会総会講演集 2015)

玄海原発周辺での白血病の多発

玄海町や唐津市など、玄海原発に近いところほど原発稼働後に白血病死亡率が高くなっています。

原発稼働の前後で、玄海町と唐津市 の白血病死亡者数の合計は、

原発稼働前 10 年が 66 人に対して稼働後 10 年が 185 人と約 3 倍に増えています。

玄海原発は放射性物質トリチウムの放出が国内の他の原発に比べて突出!

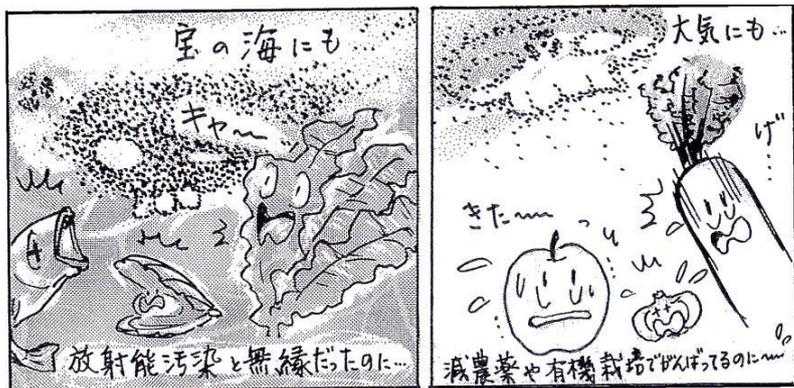
稼働していた 2012 年までの 11 年間で累積 826 兆ベクレル を環境に放出しています。

これは福島原発事故の汚染水タンクにある 817 兆ベクレル (2014 年東電説明) を上回ります。

これが白血病多発の原因として疑われます。トリチウムは水素の一種なので、放射線を出す水分子となり、普通の水分子と同様容易に人体に入り内部被ばくを引き起こします。

子どもたちと未来のために みんなで原発を止めよう

原発稼働ゼロ(ほとんどゼロ)が5年続きましたが電力不足なし！



再稼働して核のゴミをこれ以上増やしてはなりません！

稼働すると使用済み核燃料が出ます
それを再処理するともっと危険な
プルトニウムと高レベル放射性廃棄物
が生まれます。

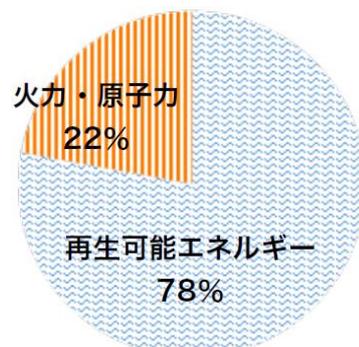
原発は稼働中にも大気や海に放射性物質を排出！
再処理工場を稼働すればさらに大量の放射能で環境を汚染！

再生可能エネルギーの急速な伸び・CO2削減は可能

2016年5月の好天日には、九電は需要747万キロワットのうち
太陽光など再生可能エネルギーで582万キロワット、
つまり78%をまかないました。(右の円グラフ)

火力や原子力もあるので200万キロワットは余りました。

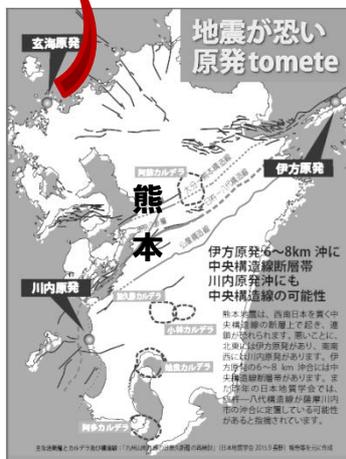
太陽光発電は、九州では行政の認定を受けていながら未設置のものが、
稼働しているものの2倍程あり、まだ大きな可能性があります。



2016年5月4日13時の
九電の電力需給
(余った200万kWは
含まない)

世論の多数は再稼働反対！

佐賀県と長崎県の30キロ圏内の8市町のうち半数の4市
伊万里市、杵崎市、松浦市、平戸市が再稼働に反対！



佐賀県が募集した県民からの意見
提案箱のほぼすべてとホームページ
投稿の約9割が再稼働に反対や疑問

原発事故の不安のない未来を
子どもたちに引き継ぐために
放射能という負の遺産を
これ以上増やさないために
一人ひとりの声が力になります

**民意を実現するために、
あなたも行動を**

数字の根拠など詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

<http://pegasus1.blog.so-net.ne.jp/2017-06-16> → → ! 豊島耕一 (元佐賀大学工学部教授)

